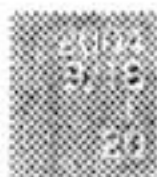


イベントレポート特集

ここしばらくの映像関係のイベントを、関係者の方々にお願いしてレポートしていただきました。いけなかった方や、今後の参考にしたい方は必見です。作品の感想や、ゲストの皆様のコメントなど、まとまってwebとかで見れると良いと思うのですが。



ショートピース! 仙台短篇映画祭2004

去る9月18日~20日の3日間、せんだいメディアテークを会場にショートピース! 仙台短篇映画祭2004が行われました。今回は3日間ともお昼過ぎからの開始で余裕を持ってと思いつつ、開始時間が近づくにつれ、フィルムは大丈夫か、ゲストはちゃんと来るのか、お客さんはちゃんと来てくれるのかと、4回目になってもなかなか余裕を持って望めない、とにかく失礼のないように心をかけてのスタートでした。今回は短篇映画祭なのに、中・長編の作品の上映があったり、各日必ずゲストのトークがあったりと新たな試みが加えられました。仙台短篇映画祭は映画を通しての「出会いの場」を作りたいと常に考えています。そのことが実を結びつつあると感じたのは、「新しい才能」のプログラムで100名以上の人が見に来てくれたことでした。作品を公募し、集まった作品から上映作品を選出し映画祭のプログラムとしてきちんと作品を上映するというものです。いわば無名に近い若手と今注目を集め始めてきた監督たちの新しい作品、過去このような上映で観客を集めるのがかなり難しく、なかなか動員が来ませんでした。今回はチラシで丁寧に作品を紹介したり、マスコミにも宣伝を行ったことに加え、仙台でもこのような作品に興味を抱いてくれる観客が来てきたということが、この動員に結びついたのではないかと思います。こういった瞬間が、映画祭の意味を実感出来る瞬間です。各プログラムとも平均100名以上の方々に足を運んでいただきました。本当にありがとうございました。何度やっても、至らないところや、加えて新たな問題も出てきます。続けていくということはそういった問題とも闘いながら、だからこそ進化していけるものであると思います。仙台短篇映画祭はまだ進化していきます。次回もまた皆様に足を運んでいただけるような、作品ありき、観客ありきの映画祭であろうと思っています。



▲青山監督



▲当日会場前の様子



▲俳優の田中夏次さんを囲んで



▲当日会場内の様子

『映画の未来。(仮)』

2004/9/17/仙台短篇映画祭前夜祭/AOGP主催

映画批評家のミルクマン斉藤さん(groovisions)、映像作家の、齋藤ゆふきさん(池)と阿部伸吾さんを招いてのトークショーでは、ミルクマン斉藤さんの上映作品への分析的な批評や、映像作家の制作に対する姿勢・ルーツについて話を聞くことができました。資料として価値のある、貴重なおしゃべりになったと思うので、近いうちにテープ起こしをして、当団体のサイトにトークの抜粋をアップするつもりです。楽しみにしてください。

パーティーも、日本酒の試飲に協力してくれた、岩手の老舗喜久盛酒造のおかげもあって、楽しい、盛り上がったものになりました。ピチカート・ファイヴのライブでおなじみの、めくるめくカラーージュで構成されたミルクマン斉藤さんのオール・スクールVJと、サワサキヨシヒロ!さんの、歌謡曲や演歌をマッシュ・アップしていくDJの素晴らしいパフォーマンスがありました。

8時間に渡る、長丁場のイベントでしたが、最後まで沢山の人が来てくれました。本当にありがとうございました。また、来年、「濃い」イベントを企画するつもりなので、楽しみに持っていてください。

AOGP代表 鈴木直樹
http://www010.upp.so.net.ne.jp/A_O_GaRDeN/

東北学院大学映画部上映会

2004/6/20(日)/せんだいメディアテーク

- 6月20日(日)曜日、メディアテーク7階シアターにて第44回上映会を行った。12時30分開演、13時上映開始。客が数人入った中で上映をスタートする。上映作品は順番に、
1. 「BAD TRACKS AND JUNGLE BOOGIE」 小野寺祐登監督 15分
(むしゃくしゃしながら部屋を一步外に出ると、思わぬ出来事が2人の男を襲う。悪夢は繰り返されるのか?)
 2. 「モモレンチャイの一日」 早坂歩監督 9分
(人助けや体力作りに余念のない正義の味方モモレンチャイのとある一日を通ったギャグ・コメディ。)
 3. 「TamaTerasu」 藤武久美子監督 7分
(何もかもに嫌気がさした一人の男が自ら命を絶つ。しかし目覚めた彼の目の前に広がる光景は、いつもの日常風景であった。)
 4. 「トワイライトXXX」 辺見祐介監督 13分
(昔の思い出に涙り続け、今の生活になじめない男。そんな男が願った先は、昔の仲間だった。最後の結末に驚く作品。)
 5. 「夏とヤクザと私の身体」 後藤徳成監督 5分
(夜更感溢れるギャグコメディ。一つのボールが男の運命を左右する。)
 6. 「罰ざされた?」 松本裕也監督 5分 (舞の中、一人、また一人と消えていく...最後に残るのは?)
 7. 「ブランコ」 及川甲子監督 15分 (人前で緊張してうまく自分を出すことのできない女の子。「好きな人に振り回してもらいたいけど、私は私でいたい。」そんな彼女のとった行動は...)
 8. 「神社エール」 鈴木麻友美監督 23分
(何事にもやる気が起きない女を励ましてくれたのは、いつも行く神社の不思議な女の子。無言のエールが心に響く作品。)
 9. 「Fortunary」 藤武久美子監督 17分
(元気になるにはどうしたらいいの?悩む続ける女の子の前に現れた不思議な女の子が彼女を解決へと導く。)
 10. 「UMASIKA」 早坂歩監督 13分
(「あいつも馬鹿、こいつも馬鹿。だけど俺は馬鹿じゃない。」そんな男が引き受けた仕事は、なんと依頼主を殺すことだった。)

観覧は17時。入客数は約40人。客の入りはまずまずであったが、1作品か2作品見て退場する客が目立っていた。10作品見てくれた人は少ないと思う。感想については、「モモレンチャイの一日」、短編の「夏とヤクザとヤクザの身体」、「ブランコ」に意見が集中した。「モモレンチャイの一日」、「夏とヤクザと私の身体」の2作品の感想は、主に「楽しかった」「おもしろかった」という感想が集中した。「ブランコ」は、「人が死ぬ内容の作品が多かった中、いわゆる『ほのぼの系』として目立った作品だった」という感想が寄せられた。

以上から、これからの上映会は、監督の作品の個性を生かしつつも、上映作品のジャンルにかたよりが生じないように、バランスのとれた作品選出をしようと思う。また、チラシについても、作品の写真を載せたり、もう少し作品内容のイメージが湧くような工夫をするという点も改良すべき点に挙げられるだろう。

<サークル紹介>

私たちは東北学院大学映画部は、映画を見るのが好き、制作するのが好き、演じるのが好き...などの映画に関することが大好きな、制作室が溢れる仲間たちの集まった、明るく楽しいサークルです。年2回の上映会を中心に活動しています。少しでも興味を持たれた方は、下記まで気軽に連絡ください。

携帯アドレス: depalma@depalma-online.com (幹事 松本裕也)

携帯HPアドレス: <http://ip.tosp.co.jp/l.asp?i=tgega>

東北大学学友会映画部デパルマ上映会

「残った線光火花」

2004/10/17/(日)/せんだいメディアテーク7階

入場者は約60人。上映作品をデパルマHPで公開中です。

<http://www.depalma-online.com/>
[mail/info@depalma-online.com](mailto:info@depalma-online.com)



▲左より鈴木/齋藤/阿部/
ミルクマン斉藤各氏



▲喜久盛酒造様



▲ミルクマン斉藤氏(左)と
サワサキヨシヒロ!氏(右)



▲当日の様子